



海のふるさと館

生涯学習時代にふさわしい 資料館を目指して

海のふるさと館は、これまでの資料館・博物館の姿にこだわらない、時代にふさわしい新たな運営を目指して、自由に利用できる展望や休憩施設も備え、観光的な機能を味付けしたユニークな建物です。

しかし、基本的な機能は資料館・博物館であり、学習や調査研究、資料保管など、教

多様な教育ニーズに対応する きめこまやかな活動

作業室、大きな収蔵庫を持ち、さらに「専門職員」も配置しているのはそのためで、このように、質的に充実している

資料館は、留明管内では「留明市海のふるさと館」だけです。

社会教育・文化施設として、この一年間数多くの教育・学習活動をしてきた「海のふるさと館」が、

新しい生涯学習時代に果たす役割に、ますます大きな期待が寄せられています。

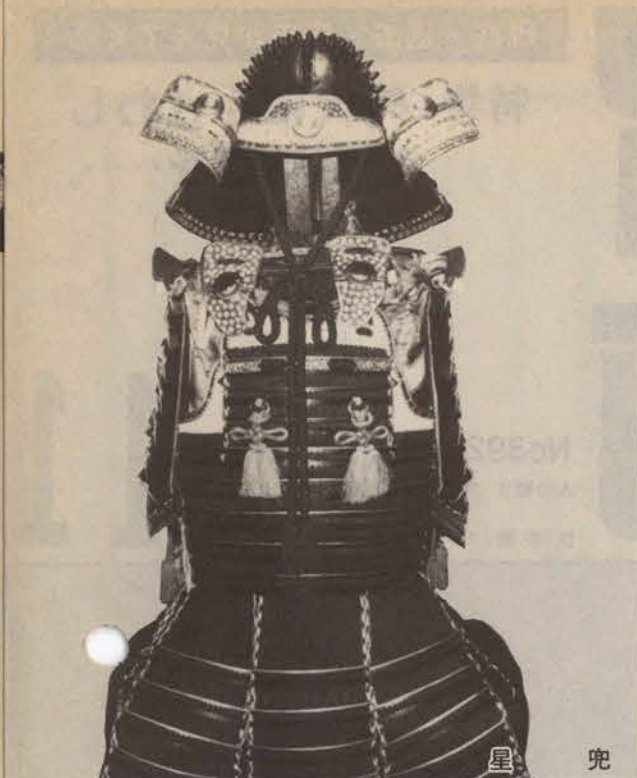
増すでしょう。

日本海は、古代から文化・経済の重要なルートとして、留明の歴史にかかわって来ました。

古代の土器も、北のアジアや南の本州の文化があり、留明のアイヌ首長コタンピルの山丹服は北から、星兜は南の本州からの文化であり、留明からの海産物も、日本海の北前船で本州の経済と大きくかかわってきたのです。



山丹服



星兜

日本海とその歴史を演出する常設展示室

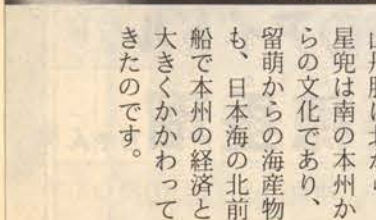
「常設展示室」には、さまざまな展示があり、例えば古代の土器、山丹服、兜、北前



北前船



古代の土器や道具



地質の展示

資料館の最も大切な仕事 が学術的な調査・研究

海のふるさと館には、「研究室」があり、「専門職員」が、歴史や自然科学など地域の問題を日常の仕事として調査・研究をしています。

いろいろな社会教育施設がありますが、このような学術的な調査・研究を仕事としているのは、海のふるさと館だけです。

展示・学習相談、出版など全ての活動は、学術的な調査研究に基づくものです。



体験学習

研究の結果は、さまざま な学習資料として発行 の財産として収集

調査・研究の結果は、さまざまな資料として出版され、市民の学習資料として提供されます。

一年間の成果は、毎年度末発行の「紀要」、研究のあらましや事業の内容などは、季刊「潮騒」が発行されており、単行本では、「るもい」のアイヌ語地名のほか、収蔵資料の目録が発行されており、今までにない専門的な資料として、注目されています。

資料の収集、保管は調査・研究の資料として、また後世に留明市の財産として伝える重要な仕事です。

「作業室」で資料を補修、計測し、台帳に記録して、「収蔵庫」に整理・分類し保管する作業を終えて、道具としての役割を終えたり、野山の石、鳥、草花も、はじめて新しい役割がはじまるのです。収蔵庫には、貴重な資料が数多く保管されています。

もっとくわしく知りたい 時は、企画展示室

常設展示で、全ての展示が終わったわけではありません。常設展示で触れることが出来なかったこと、もっと内容の深い展示などを行うため、「特別展示」を行っています。

特別展示は、海のふるさと館の職員が企画し、収蔵資料を主体にして実施しているものですが、どの企画もテーマを絞っての展示だけに、内容が濃い、常設展示が一層理解出来たなど、好評です。

学習意欲をふるいたたせる 各種学習講座

展示だけでなく、市民に学習の機会を広げるために、学習講座の開設を行っています。特に、海のふるさと館では専門的な歴史、自然科学の学習講座に重点をおき、近郊の山や海の「自然観察教室」を開いています。さらに、今年には「歴史の講座」を計画し

専門的な知識、研究・調査の結果を市民の学習に役立てたいと考えております。



13台のスライドプロジェクター